

くすり一口メモ

シックデイ時の薬の調節について

糖尿病患者が、感染症などによる発熱、下痢、嘔吐や食欲不振のために食事がとれない状態をシックデイとよびます。シックデイ時には、さまざまなストレスに対してインスリン拮抗ホルモンが増加することで、高血糖やケトアシドーシスが起こりやすくなります。一方で、食事が少ないままいつもどおりに薬剤を服用すると低血糖をきたす危険性もあります。今回は、血糖値が乱れやすいシックデイ時における糖尿病薬の調節例についてまとめました。

薬剤の分類	食事がいつもの半分以上摂取できた場合	食事がいつもの半分以下の場合
インスリン製剤	<ul style="list-style-type: none"> ・中間型または持効型インスリン注射は原則継続 ・追加インスリンは食事に応じて調整する 	
インスリン分泌促進薬 [SU薬・速効型インスリン分泌促進薬]	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取不良である場合は調節が必要 ・「食直前」の薬をシックデイ時には「食直後」に変更し、食べられた量に応じて薬の量を調節してみることもできる 	
	・半分程度なら薬の量も半分	・半分も食べられないなら休薬
グルコシダーゼ阻害薬	<ul style="list-style-type: none"> ・下痢などの症状を強める可能性があり、消化器症状の強いときには休薬する 	
ビグアナイド薬	<ul style="list-style-type: none"> ・シックデイに伴う脱水により乳酸アシドーシスが起こりやすくなる可能性があるので休薬する 	
チアゾリジン薬	<ul style="list-style-type: none"> ・中止してもしばらく作用が続き血糖値に大きく影響しないので休薬することが可能 	
DPP-4阻害薬	<ul style="list-style-type: none"> ・食事をとれるなら服用するが、とれないなら服用しても血糖降下作用が少ないため休薬することが可能 ・現在、コンセンサスが得られていない 	
SGLT2阻害薬	<ul style="list-style-type: none"> ・シックデイに伴う脱水やケトアシドーシスを強めるように作用するので休薬する 	
GLP-1受容体作動薬	<ul style="list-style-type: none"> ・悪心など胃腸障害が現れるためその際は休薬、そうでなければ継続 ・現在、コンセンサスが得られていない 	

シックデイ時には脱水により腎機能が低下し、腎排泄型の薬剤の排泄が滞ることで低血糖を引き起こすこともあるため、十分な水分摂取とケトアシドーシス予防のため、できるだけ摂取しやすい形（お粥、果汁など）で糖분을摂取しエネルギーを補給することが必要です。

参考文献：添付文書，糖尿病診療ガイドライン2019

糖尿病ネットワークホームページ，薬局 2019 (Vol.70 No.8)

(鹿児島市医師会病院薬剤部 川添 希)